

牛久二中だより

牛久市立牛久第二中学校
平成28年2月20日発行
学校通信 2月号[文責櫻井]

少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業

12月号に引き続いて、文部科学省より、奥野地区（奥野小学校・牛久第二中学校）に「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」の指定を受け、小規模校の存続の在り方を研究する取り組みについて述べたいと思います。

12月号では、1つめの柱、英語・国際理解教育の充実についてふれましたが、今回は、2つめの柱、地域の教育力を活かして、「ふるさと奥野」をよく知るという視点で取り組む、総合的な学習の時間を中心としたESD教育についてご説明します。ESD教育とは Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」とされています。

現在の社会は、地球温暖化やPM2.5などの環境問題、暮らしに必要な電気や燃料などをどうするかといったエネルギー問題、インターネットの普及などによる情報化の問題、国際社会の紛争に伴う難民問題など様々な問題が山積しています。これらの大きな問題は、将来生徒達が成長し大人となっていくときに解決していかなければならない課題です。これらの課題について、その解決のために中学生である今の時点で、問題を調べて実態を知り、解決のために考え判断しながら、生徒なりの意見を様々な形で表現する活動を通して、学びを深め、将来これらの課題を実際に解決できる力を育成しようとする教育です。

生徒達の生まれ育つ「奥野」は、豊かな自然に恵まれ、そこに住む人々の生活があります。保護者の皆様や地域の皆様など、生徒の教育に協力して下さる方々も沢山います。これは二中の生徒にとって、すばらしい教材です。

これらの教材を活かして1年生では奥野の自然や産物について学びます。2年生では、自分の生き方や将来について学ぶ学習に関連し、奥野に生きる人々の職業や生き方を学びます。3年生では、2年生までに学んだことを様々な形で発信していきます。

このような学びを通して、将来にわたって生徒が直面するであろう様々な課題を解決する力を育成していきます。12月号でもふれましたが、生徒一人一人に将来に渡って「生きる力」となるであろう「学力」と「自分の生まれ育ったふるさとを愛する心」を育てたいと考えています。

ESD教育の充実ふるさと奥野から学ぶ

地球温暖化などの環境問題やエネルギー問題、世界が抱えるこの問題も、身近な自然を大切にするとところから解決の道が開けます。私たちの住む奥野の豊かな自然を教材にNPO法人アサザ基金の支援を受けながら、豊かな自然を更に深く知るとともに、ふるさとのかかえる様々な課題に目を向け、こうすればもっとよくなる。ふるさと奥野がこうなってほしい。という生徒の思いを表現していく学習です。

また、身近な生活の中に奥野で生きる人々の生活があり仕事があります。そのような人の生き方やその思いを学ぶことで、自分自身を見つめる学習も行います。



<学校便りなどのお便りは、学校ホームページにも掲載されています。是非ご覧ください。>